

新基地建設「愚の骨頂」

遺骨土砂使うな

自政権が強行する中継県名選出

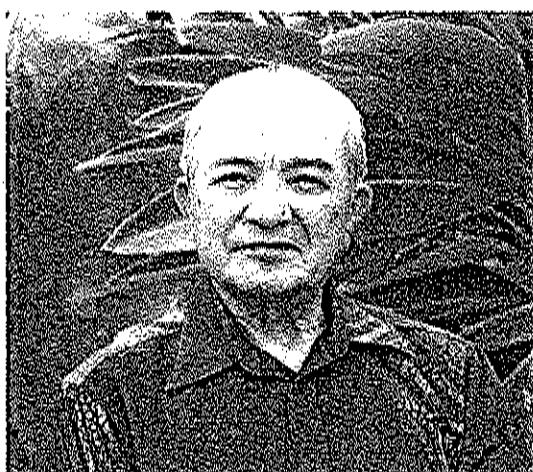
辺野古の米軍新基地建設は「歴の骨頂だ」。沖縄戦で弟妹が行方不明となつた那覇市在住の齊屋武幸道(あやん・じゅせう)さん(83)は、沖縄戦犠牲者の遺骨を含む沖縄本島南部の土砂を、新基地建設に使用する園の計画は「無意識(よのいしゆう)」と憤り、新基地建設を中心とした新政権を望んでいます。(小林司)

お嬢様の隠れ家だった
命を落とした。

小林司

那霸市在住

き ゃん こうせい
高屋武幸清さん(83)



「オール沖縄」4候補に期待

洋子さんを連れていた」が
「行き」「一人で壕に戻つて
きました。「母ちゃん」と泣きながら
追いかけてきた幸雄さん
の声を聞いて壕から田へ
いき、しづかのソソリと再び
一人で戻りました。

祖父の遺物どもこの時
亡くなりてござれば幸甚れ
といはずれたる遺骨も残
つてゐるだけ、「使つ
いふは絶対に許せん」
と誓つてお持す。

本兵が銃を突き出され、子の4人と「鉄の暴風」どもが泣くと敵に見つかること呼ばれた砲弾・銃弾の中を逃げました。母子さんは年長の2人は泣かないので、「助けてください」と訴え、「助けてください」と訴えます。お父さん、2歳か3歳だったお母さん(現・糸満市)は、喜雄(ゆきお)さん、0歳の洋子(ようこ)さんと4歳の幸紀(こうき)さん、2歳か3歳だったお母さん(現・糸満市)は、喜雄(ゆきお)さんは壇に入れないがどちらに残し、那覇で暮らしていまして。祖母が米軍の砲弾で亡くなり、家族と本島南部へ避難。途中、米軍の機銃掃射で祖父も喜屋武さんは、父親はマリアナ諸島・テニアン島に残し、那覇で暮らしていまして。祖母が米軍の砲弾で亡くなり、家族と本島南部へ避難。途中、米軍の機銃掃射で祖父も